

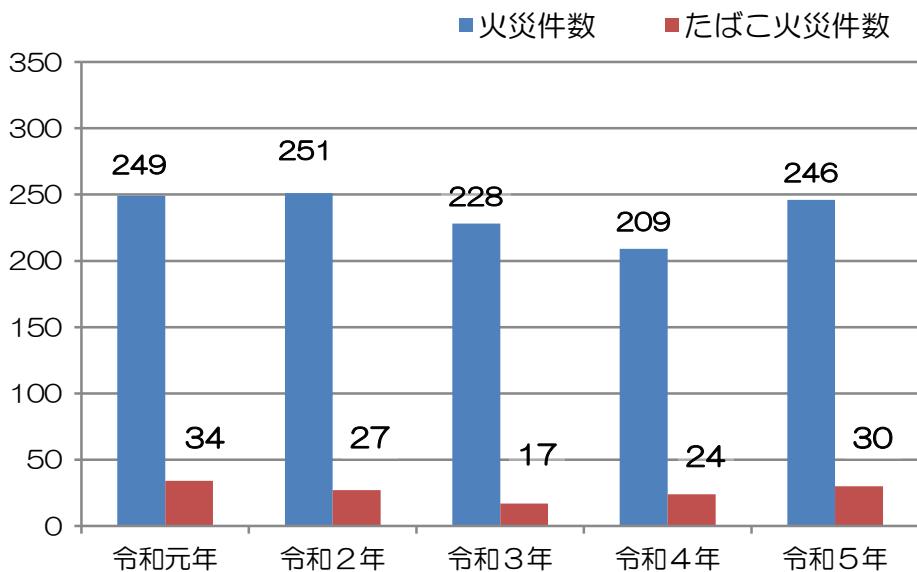
こんな火災をなくそう！（たばこ火災編）

「たばこ」による火災は、毎年、全国でも出火原因の上位を占めています。仙台市も例外ではなく、令和5年に発生した246件の火災のうち、30件は「たばこ」が原因で、全火災の12.2%を占めています。

仙台市内における、過去5年間(令和元年～令和5年)の「たばこ火災」の件数を見てみると、平均で1年間に約26件発生しており、毎年出火原因の上位に入っています。

たばこ火災は、初めは炎を伴わない「無炎燃焼」が起こり、布団や畳などを焦がしながら徐々に拡大して、やがて炎を伴う「有炎燃焼」に移行し、延焼拡大するのが特徴です。炎を伴わない無炎燃焼は気付きにくく、発火するまで数十分から数時間かかることもあるため、注意が必要です！

火災件数及びたばこ火災件数



たばこによる火災事例（実験画像）



灰皿の吸い殻が山盛りとなった状態では、たばこの火を消したつもりでも、火種が残っている場合があります。

ガラス製の灰皿の場合、火種の熱により灰皿が割れて火種が飛散することがあります。

たばこによる火災事例

灰皿代わりに使用していたペットボトルに、火種が残った吸い殻を入れて、ごみ箱に捨てたため、火災になってしまいました。



たばこの吸い殻

防火のポイント！

- ・寝ている間など、知らぬ間に布団や畳の上に火種が落下し、就寝後や外出後に出火する事案が発生しています。寝たばこは絶対にやめましょう。
- ・火種が残った吸い殻をごみ箱などに捨ててしまい、出火する事案が発生しています。吸い殻はそのままごみ箱等に捨てず、水に浸けるなど、確実に火を消してから捨てましょう。また、灰皿には水を入れて使用し、カップ麺の容器や、ペットボトルなどを灰皿代わりに使用するのはやめましょう。
- ・たばこの投げ捨てなどにより、枯草やごみ置き場のごみが燃える事案が発生しています。たばこの投げ捨てや歩きたばこは絶対にやめましょう。